

ホテルのニュースレター

日本ホテルの会 2005/3 第32号

あきらめないで続けよう

日本ホテルの会会長 矢島稔

ことわっておきますが、私は自分で長年ホテルを調べ、飼った経験があるので、そのむづかしさがよく分かります。

そこで人に尋ねられるとつい問題点を次々にあげます。聞いた人は次第にいろいろな事があると思い出し、そう簡単ではなさそうだと考え込むかも知れません。

事実、そう簡単ではありません。ちょっとした手入れの方法でも人が変わると、それ迄は出ていたホテルが少なくなったり、飛ばなくなってしまうこともあるからです。

技術は人なりで、口で説明しても伝えられないことは多々あります。それに気づき悩み、苦しんでも続けるうちに、「自分の方法」を見つければ成果はきっと出てきます。

ホテルの美しさにひかれ、工夫して続ければ必ずあの光りを自分の手で出せるといえます。だから、私はこの会を会員の皆さんと共に10年以上続けているのです。

動物を飼うことは、それが鳥でも獣でも同じです。まして昆虫は小さくて寿命が短い上



タムタム♂ 初めて日本で飼育された6頭の中の1頭。今年2月に22歳で永眠。

に条件が沢山あります。

でも、だから面白いのです。こういう気持ちで少し時間をかけて、ホテルとつきあって下さい。

1984（昭和59）年、日本に始めてコアラが来ました。それ迄飼育記録のない動物ですから、どうして飼育したらいいのか、何をどの位用意したらいいのか日本中の誰も知りませんでした。

係員をオーストラリアの動物園に研修に出し、むこうの飼育法を教えてもらいました。

健康なコアラは水を飲まないこと、一日中、特に昼間は殆ど動かないことなど意外な事実が次第に分かってきました。

驚いたことはまだまだ沢山ありますが、飼育係として一番気になるのは餌です。

食べるのはユーカリの葉というのはみんな知っていました。でも現地に行きますとユーカリは約600種あって、その内コアラが食べるのは数種類が常食で、この他たまに食べるのが数種類というのです。オーストラリアは植物検疫が厳重な国なので種子を分けてもらい、それを都内のあちこちに播きました。

苗が冬の寒さで枯れそうになったり、数が不足したら大変と数万本も栽培しました。

果たして日本産のユーカリをオーストラリアのコアラが食べるかどうかというテストの為に月に何十キロものユーカリの枝を送ったりもしました。

日本にきたコアラは話題になって、各地の動物園でも多くの人に来ていただきました。

今でも当時のことをあれこれ思い出しますが忘れられない事が一つあります。

コアラの成獣の体重は約10キロです。これが一日にどの位のユーカリを食べるのか、私達は毎日、ユーカリの枝の重さを計り、それを何か所かの大きな筒に入れて与えました。

翌日も同じように計ったユーカリを与え、前日の枝の重さを計って、一日の間にどの位食べたのかを記録しました。

その結果分かってきたのは一頭が一日に食べる量は数百グラムです。

これは大人の両手にのる位の量でしかありません。ユーカリの他は何も食べない動物ですから、ちょっと少ないのに驚きました。

ではその位のユーカリを与えればよい筈です。しかしもしそうしたらコアラはユーカリを食べません。

結論からいいましょう。コアラは自分がとまっている周りがすべてユーカリでおおわれ、あの独特なおおいで包まれていないと食

欲がおきない動物なのです。

従って実際食べる量の50倍も100倍ものユーカリがないと食べようとしないのです。

私はシドニー市の郊外にあるコアラのサンクチュアリーを何か所か見に行きました。

ユーカリの大木が沢山ある所に行くと上の枝に体をまるめて、じっとしているコアラがみられます。昼間は動かないで風にゆれる枝の上で葉や小枝と同じようにゆれ動いています。

そうだ、コアラはユーカリの果実と思えばいいんだ。こういう条件で生きてきた動物は周りすべてがユーカリで、そのなおいに包まれていなければ食欲が出ないのは当然です。

ユーカリをほんの少し食べ、それだけで世代を重ねてきた有袋類が、もし大食いで、ユーカリをどんどん食べたら食べものも住む所も無くなって、自ら滅んでいく他なかったに違いないのです。

私達は特定の動物を考える時、直接関係のあるものをそろえ、それを中心に据えて大切にします。しかし、流れ→カワニナ→ホタルという核のまわりにはそれを支えるいくつもの条件があって、目には見えないものもあります。その関係を把握し、コントロールするのが技術に他なりません。しかも年によって状態が変わることもあるので、いつも同じようにやっていてはマイナスになる事もあります。

生きものとつき合うには、こうした事実の変化にあわせた幅のある対応こそ大切だと思います。

冒頭にいいましたが、ホタルの飼育は決して容易ではありません。しかし、根気よく少しずつ理解すれば、道は自ら開けると信じて。どうぞいっしょに考え、共に未来の日本(世代)のために互いにたかめあおうではありませんか。

比較的容易である。しかし、タイプⅡは、殻の形態、色からはマシジミによく似ているものもあり、容易に断定できない。

2001年から2004年かけて、外国産シジミ類の出現状況を確認するために相模川水系全域でマシジミおよびタイワンシジミの生息調査を実施した。相模川両岸122ヶ所の調査地点のうち58ヶ所でタイワンシジミの生息を確認した(図1)。相模川、金目川両水系全域、20河川中14河川にタイワンシジミが生息していた。また、相模川右岸の西部用水路、左岸の左岸用水路にもタイワンシジミは広範囲に生息していた。在来種のマシジミの生息を確認できたのは、厚木市内のゴルフ場の遊水池1ヶ所のみで、近い将来相模川流域ではマシジミの絶滅が危惧される。

調査の結果、分布拡大のプロセスに相模川両岸の主要な農業用水路が密接に関係していることが明らかになった。

相模川右岸では、地図上にタイワンシジミの生息地点をプロットすると、相模川、中津川、荻野川を除き、西部用水路の下流側に集中していることがわかる。つまり、相模原市の磯辺頭首工で取水された西部用水路の水が、支水路から水田を経由して排水路である各河川に落ちるが、その下流側にタイワンシジミの生息地点が集中的にしていた。

西部用水路では、中津川より下流は少量ながら一年中水が流れている。西部用水路内でカーブの内側など、砂や礫が堆積しているところにはタイワンシジミが生息しており、稚貝も多く盛んに繁殖していた。こうした条件を満たす地点は西部用水路内に何ヶ所もあり、西部用水路が、言わば『タイワンシジミの養殖場』になっていた。用水路内で繁殖し

たタイワンシジミが支水路、水田を経由して下流側の河川に分布を拡大をしていったものと推測される。

相模川左岸では右岸のように用水路の下流側にタイワンシジミの生息地点が集中しているといった顕著な傾向は見られなかった。相模川左岸地域でのタイワンシジミの分布拡大の主要な要因は、その多くが人為的なものであった。

寒川町岡田の湧水にも、タイワンシジミが生息していた。河川とは離れた場所で、このタイワンシジミは左岸用水路に生息していたカワニナと共に採集され、ホタルの幼虫と一っしょに放流されたものであることが判明



写真1. 座間市入谷 龍源水ホタルの公園水路と生息していたタイワンシジミ



写真2. カワニナとタイワンシジミが同所的に生息
(神奈川県津久井郡城山町藤木川付近水路)

した。座間市入谷にある龍源水ホタルの公園(写真1)や、神奈川県立座間谷戸山公園の水路にもタイワンシジミが生息していた。いずれも相模川から取水している左岸用水路の支水路に生息していたタイワンシジミが、カワニナと共に放流されたものであることが判明した。

この外にも、自然保護ボランティアの方が左岸用水路の支水路で採取したタイワンシジミを、外来種とは知らずに鳩川、道保川、八瀬川、目久尻川等に繁殖目的で放流していた。シジミということで、外来種であることを知らずに、また知っていても抵抗感なく自然水域へ放流してしまうのであろう。これに類した人為的な外来種シジミ放流の可能性が多くの地域で考えられる。

最初に外来種のタイワンシジミが相模川に侵入した経緯は依然として不明だが、その後の二次的な分布拡大の要因とプロセスはほぼ明らかになった。

ここで特に問題なのは、ホタルの幼虫放流といった自然保護に関係する活動に伴って、外来種とは認識されずにタイワンシジミが分布を拡大しているということである。ホタルの幼虫を飼育するためには、それぞれの幼虫

の大きさに合ったカワニナが大量に必要である。ホタルが自然に生息している水系から、ホタルの生息に影響を与えずにカワニナを確保するのは困難であろう。各地でホタルを守る会の活動は盛んである。かつてのように、産地がどこかに関わらずホタルが飛べばいいというものではなくなった。東京で関西地方のホタルを持ってきて養殖し、厳しい批判を受けるようなことはなくなった。少なくとも、水系内のホタルを移すようになったという。しかし、ホタルの幼虫を育てるために欠かせないカワニナに、どれほどの注意が払われているであろうか。メダカと同じように、

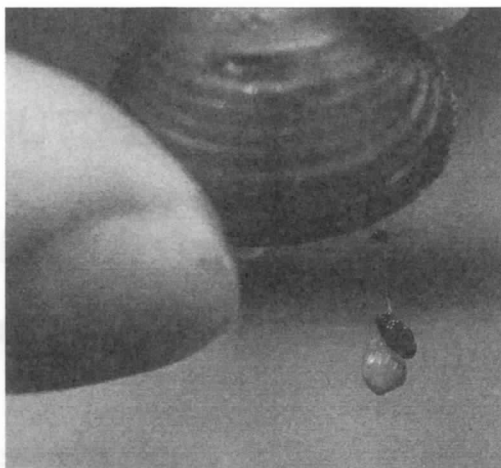


写真3. 粘着性の糸で親貝に付着するタイワンシジミの稚貝

カワニナも水系ごとに異なる遺伝形質をっており、生息水系外に放流することは控えるべきである。ましてや、外来種の分布拡大には特に注意を払わなければならない。

ここでさらに厄介なのは、同じ水系、近くの水路からカワニナを採集して放流するといった細心の注意を払っても、余程注意深く見なければ見つからないほど小さなタイワン

シジミの稚貝は排除できないということである。見慣れている者でも、稚貝がいるものと意識して探さなければ、タイワンシジミの稚貝を見つけることは難しい。

卵胎生で、粘着性の糸を持つタイワンシジミの稚貝は、カワニナにも水草、小石にも付着している。(写真3.)

卵胎生、雌雄同体、雄性発生という特殊な繁殖様式を持つタイワンシジミは、一個体でも水系に侵入すれば爆発的に繁殖拡大してしまう危険性を持っている。

姫路市立水族館の増田修氏によれば、外来種のタイワンシジミが国内で確認されたのは1987年頃の岡山県倉敷市であるが、現在は北関東から九州、四国のあちこちで自然繁殖が確認され、場所によってはマシジミと完全に入れ替わってしまった例もあるという。動植物等の移動は、外来種の分布拡大等、我々の想像を超える事態を惹き起こしかねない。

全国のいわゆる『ホタル水路』で、タイワンシジミをはじめとする外来種が生息していないか調査する必要がある。

■ 2003 年度会計報告

2003 年度会計報告は、2004 年 12 月 18 日の理事会において承認を受け、2005 年 1 月 8 日の会計監査において、収支決算の確認がなされましたので、次のとおり報告します。

なお、会計監査は、日本ホテルの会鈴木浩文氏にお願いしています。

2003 年度日本ホテルの会収支計算書

(2003 年 4 月 1 日から 2004 年 3 月 31 日まで)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
収入の部			
1. 会費収入	1,200,000	1,039,000	161,000
会費収入	1,200,000	1,039,000	161,000
2. 寄付金	0	1,000,000	-1,000,000
寄付金	0	1,000,000	-1,000,000
3. 参加費	6,000	2,800	3,200
談話会参加費	6,000	2,800	3,200
4. その他収入	30,000	31,800	-1,800
その他収入	30,000	31,800	-1,800
5. 受取利息収入	20	26	-6
受取利息	20	26	-6
当期収入合計 (A)	1,236,020	2,073,626	-837,606
前期繰越収支差額	800,000	780,414	19,586
収入合計 (B)	2,036,020	2,854,040	-818,020
支出の部			
1. 事業費	156,020	142,221	13,799
(1) 通信費	21,020	15,030	5,990
(2) 印刷費	70,000	79,506	-9,506
(3) 会場費	5,000	0	5,000
(4) 需用費	10,000	3,685	6,315
(5) 旅費	50,000	44,000	6,000
2. 管理費	1,080,000	996,749	83,251
(1) 通信費	250,000	164,992	85,008
(2) 印刷費	150,000	177,833	-27,833
(3) 需用費	50,000	23,924	26,076
(4) 家賃	630,000	630,000	0
当期支出合計 (C)	1,236,020	1,138,970	97,050
当期収支差額 (A-C)	0	934,656	-934,656
次期繰越収支差額 (B-C)	800,000	1,715,070	-915,070

需用費には、消耗品、食料費、手数料が含まれます。

事務局からのお知らせ**理事会報告**

2004年11月13日、2004年12月18日に理事会を開催し、ホームページの拡大、ニュースレター第32号の内容検討、2003年度会計報告、第7回談話会の検討、シンポジウム参加人数拡大策の検討などを協議しました。

会員証の発行について

2004年末に会員証を発行しました、当年度会費の入金を確認した後にお送りしておりますので、届いていない方は事務局までご連絡下さい。会員証は毎年発行いたしますが、次年度の会員証が届くまではそのままお持ちください。

また、会員証にご意見、ご感想がありましたらお寄せください。2005年度版の参考とさせていただきます。

■読者投稿の募集

日本ホタルの会では、ニュースレターへの、皆様の投稿をお待ちしています。ホタル、環境保全などに関する調査、研究報告、各地域での活動報告をはじめ、読者の皆様の体験、ホタルとの出会いなどを紹介する「私とホタル」のコーナーに掲載する記事を募集しています。

ご希望の方は、題名、氏名等と簡単な内容を記載して事務局あてお送り下さい。

ホタルのニュースレター（第32号） 2005年3月31日発行

編集 日本ホタルの会事務局
発行 矢島 稔

156-0041 東京都世田谷区大原 2-17-6
ステーションプラザ代田橋 410
(株)オーグラム内 日本ホタルの会事務局
TEL & FAX : 03-3328-7379
e-mail : KYW07337@nifty.ne.jp



印刷 システム印刷株式会社
191-0031 東京都日野市高幡 1012-13
TEL : 042-591-1411 FAX : 042-591-7701